

英国 EPSRC サンドピットについて

村田理事とデルピ EPSRC 事務総長との会談(平成20年5月22日)時に、先方から紹介のあったサンドピットについて、EPSRC 担当者より聴取した情報に EPSRC のサイト上の情報を加えた調査結果以下のとおり。

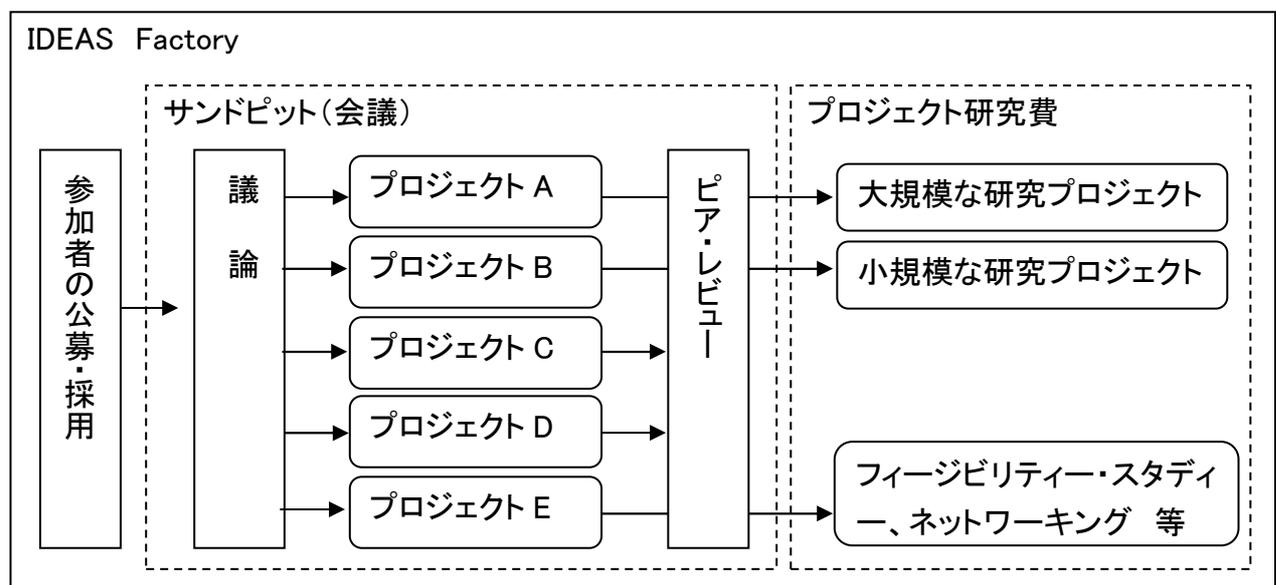
EPSRC IDEAS Factory

<http://www.epsrc.ac.uk/ResearchFunding/Opportunities/Networking/IDEASFactory/default.htm>

1. IDEAS Factory

○IDEAS Factory は、プロジェクトを練り上げるサンドピット(砂場)と、それをフォローアップするファンディングにより構成され、通常的环境では着想困難な高度に革新的な研究プロジェクトを、リスクを許容して推進するための新しい試み。

○予算規模は、サンドピット会議が約6万ポンド(約1,300万円)、その後のプロジェクト研究費の総額が約100万~400万ポンド(約2.1億~8.4億円)。



2. サンドピット

○サンドピットは、5日間集中的に開催されるワークショップ。日数は5日が基本だが、3日などのケースもある。ただし、5日を最大としている(集中力を継続できる上限のため)。

○日常生活から切り離された場で、環境作り・雰囲気作りのためのテクニック (Facilitation Techniques) を駆使した支援により、創造力をより発揮できる環境が提供される。創造性を発揮できる環境・雰囲気作りが重要。

○テーマは大きく2つに分類される。

①問題ベースのテーマ： 利害関係者等が革新的な解決を期待している問題をターゲットとするテーマ

②パラダイム・シフトのテーマ： 新たな研究の方向性を示すテーマ

○サンドピットの成果(プロジェクト提案)は、事前には決められておらずサンドピットの中で決定され、様々な形態が認められている。(ひとつの大規模な研究プロジェクト、いくつかの小規模な研究プロジェクト、フィージビリティ・スタディー、ネットワークング、海外訪問など)

○サンドピットに馴染まない行為： (専門分野の)技術的なプレゼンテーション、委員会形式の会議、(典型的な)ディベート、各自の専門分野ばかり語る事、特定分野の追加的な研究 等

○サンドピットの関係者：

	役割	備考
ディレクター (1名)	・プロジェクトの総括 ・テーマに関する専門的な助言とガイド ・提案された研究プロジェクトの審査	・テーマの専門家を EPSRC が選定・指名
メンター (3名程度)	※ディレクターに準ずる(プロジェクトの総括除く)	
ファシリテーター (3~4名程度)	・手続き面を担当 ・環境・雰囲気作りの支援(過去の経験に基づいて) ・ディレクターとサンドピットを設計	・EPSRC 職員
利害関係者 (3~5名程度)	・サンドピットへの現場の知見に基づいた助言 ・研究プロジェクト時の連携・協力	・問題ベースのテーマの場合に、産業界、NGO・チャリティー、公共団体、民間団体等から参加
参加者 (20~30名程度) ※30名が上限	・サンドピットへの参加 ・研究プロジェクトへの参加 ★ <u>ファンディングの機会</u> は「参加者」(サンドピットでのピア・レビューを通過したプロジェクトのメンバー)だけに提供	・参加者公募 (Call for participants) を通じて、ディレクターとメンターが採用。また、 <u>心理学者1名も選考に加わる</u>

・1名の「ディレクター」と複数の「参加者」で構成され、20~30人(30人が最大)。その他に、メンター、ファシリテーター、利害関係者による支援・協力がある。

・「参加者」は、広範な研究分野(人文・社会科学分野から工学・物理学・数学分野等)から公募される(Call for participants)。採用にあたっては、各分野、男女等のバランスをとる。なお、課題領域の前提知識は問わない。

- ・学際領域研究への貢献、チーム作業、専門外のひとへの説明、新規性・独創性の高い研究的発想などが選考基準。リスクを積極的にとる意欲、創造力、コミュニケーション・スキルなどの個人的特質(Personal attribute)も考慮。

○ピア・レビュー

- ・各提案プロジェクトは、参加者全体に対してプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。また、ダイレクターとメンターから助言を受ける。
- ・参加者全体の民主的なプロセスにより、プロジェクトとそれに対するファンディングが決定される。(必要に応じて)ダイレクターとメンターが最終的な決定を行う。

3. 英国外及び産業界との連携

○欧州及びグローバルな交流は、本スキームにとって有益であるため、プランニングのフェーズとして検討され得る。

⇒来年(夏頃)、米国 NSF と共同で実施する予定。研究分野は、合成生物学(Synthetic biology)。おそらくそれが直近のイベントになる。

○産業界からの参加は要件ではないものの、適すれば、産学連携により質を高めることができる。

○IDEAS Factory の過去のテーマ

年 度	テ ー マ
平成 19 年度	Nutrition for older people
平成 18 年度	Emergence, Extreme weather events, Matter compilation via molecular manufacturing, Mobile healthcare delivery, Computing with uncertain future devices
平成 17 年度	A noisy future, Bridging the digital divide, Scientific uncertainty and decision making for regulation and risk assessment, Gun crime
平成 16 年度	Detection and mapping of buried infrastructure, Novel synthesis techniques, Productivity

(参 考)

○村田理事とデルピEPSRC事務総長との会談(平成20年5月22日)時に話のあった、サンドピットへのJSPSからの見学の可能性については、直近のイベントが未定であること、及び米国NSFとの共同開催が直近のイベントになる可能性があることなどから、今後の状況を見つづ引き続き検討することになった。

○サンドピット公募の事例

Hydrogen as an Energy Vector (平成 19 年 12 月 4~6 日)

<http://www.epsrc.ac.uk/CMSWeb/Downloads/Calls/HydrogenSandpit.pdf>

(了)